

草木ダム管理所

## 桑原 啓一氏

〔現在の担当業務〕ダムの機械設備に関わる巡視点検や不具合対応等の保守管理、監督補助、マニュアル整備や技術指導、社内相談窓口（ヘルプデスク）など。

〔技術の継承〕技術の習得では、基本を研修や自己学習で学ぶことも大切ですが、現場での日常業務の繰り返しによる実践で、人と時間を惜しまず経験させることが効果的だと思います。私は職員を支援補助する立場としてその人の年代や経歴から経験できなかったことを重点的に指導助言するよう心がけています。それが本人の資質を活かし将来を見据えた技術力の継承になると信じています。

〔忘れられない業務経験〕最初に着任した建設最盛期の一庫ダムで管理移行の頃まで7年間在籍し、放流設備担当として建設工事から維持管理まで一番良い時期に一連の機械業務を系統立てて学べたことが自分の大きな財産に



## メンテナンス技術の探求

〔後輩に向けて〕業務の中で自分の得意分野や興味のあるものをぜひ一つは持つてください。新しい技術や知識もその一つで、きっとどこかで役に立つ場面があります。人生は長い。どうせやるなら、やらなければならぬのなら、楽しくやることです。

## 利根導水総合事業所 林 健二氏

〔現在の担当業務〕施設の維持管理に関わる工事の積算審査、発注支援、現場監督の指導など。

〔技術の継承〕仕事は自身で考え悩み覚えたほうが理解が深まるので、例えば工事の積算では、気になる部分の指摘だけでなく、実際の工事をイメージした積算条件の理解を優先するなど、時間は掛かっても身につくためのプロセスを大切にしています。

〔忘れられない業務経験〕事業完了間際の建設現場を4度経験したことで、どの事業も工期が迫る多忙を極める頃でしたが、その中でも愛知用水二期事業の牧尾ダム堆砂対策で事業完了



## 技術が身につく プロセスが大切

間際に取付け護岸が流亡し、その対応と調整に苦労した経験は今も忘れられません。楽な仕事は覚えてなくても苦労したときはよく覚えているものです。笑。当時は必死でしたが、今はそれがやりがいだったように思います。

〔水機構の強み〕多目的かつ広域的な業務を一元的に行う水機構事業ならではの調整業務の多さ、これを円滑に実施していくためのノウハウや普段からの関係者との信頼関係こそが水機構の強みと言えるのではないのでしょうか。

〔後輩に向けて〕人脈ができると悩む場面が助けになり、詳しい人に聞ける関係があると自分も楽になります。私たちの仕事は転勤が付きものですが、人脈を広げる意味では転勤も必ずプラスになります。また、管理施設の小さな不具合でも改善する気付きと行動力に期待したいですね。ちょっとした改良で良くなることはまだまだあるはず。経験により気付きも増えるので、常に改善する意識をもって仕事と向き合ってもらいたいです。上司からの指示も自分なりの理解や納得をしてから進めることです。分からなければ訊く。いろんなことに疑問や興味を持つことで仕事の幅が広がると思って頑張ってもらいたいです。

定年退職後に機構業務をサポートいただいているシニアスタッフの皆さんに、水のプロ集団を次世代につなぐ技術の継承、将来に向けた思いなどを語ってもらいました。

総合技術センター

## 山口 健一郎氏

〔現在の担当業務〕機構職員、自治体及び民間企業職員等を対象としたダム防災操作研修、ダム堰への流入量予測システム（分布型流出予測）の検証など。

〔技術の継承〕シニアになると新しい情報や組織の動向が把握しづらい部分があったり、リモートによる研修では受講者の理解度の把握が難しいところがあるので、コミュニケーションを大切にしています。

〔忘れられない業務経験〕香川用水総合事業所の副所長として勤務した頃、水路事務所とダム事務所の仕事の進め方の違いや、防災時に川からの取水停止に伴う配水対応を行う水路系の大変さにも驚きましたね。関西支社で流域委

※研修で指導する山口さん(左)



## 目的に沿った手段の効率化を

〔後輩に向けて〕仕事は経験して初めて分かるもの。変える必要や改善点があれば積極的に変えていく、疑問点があれば確認して、目的を考えながら優先順位を付けて仕事をしていくことが大切だと思います。また、近年は情報量の増加とともに仕事量も増える傾向にあります。省力化できるところは積極的に改善して合理化していく、例えば、先進機器やシステムに強い若者自らが考え改善していく気概も必要です。そのとき最も重要なことは目的を見誤らないことであり、手段と目的をしつかり認識し、目的に沿った手段の効率化を図ること。そのことが仕事を進める上で楽になり、ひいては水機構の発展にもつながると思います。後輩職員の皆さんに期待しています。

## 思川開発建設所 田村 三明氏

〔現在の担当業務〕見学者対応、見学施設の巡視管理、庁舎管理、入札公告のチェックなど庶務事務など。

〔技術の継承〕事務職の仕事は、“実務を通じて覚える”のが基本とと思っています。そのため、契約や経理業務に慣れていない職員には、聞かれたことは自分の経験値を持って、できるだけ丁寧なアドバイスに心掛けています。

〔忘れられない業務経験〕最初の勤務先である奈良俣ダム建設所では、庶務課配属で雑用が多くても、職員のサポートとして重要な仕事だと思って勤務に努めたこと全てが印象に残っています。その後、本社で、一般競争・公募



## 使命感こそがやりがい

〔後輩に向けて〕私はこれまで他職種の職員との関わりを常に大切にしてきました。若い時の職場や仕事の付き合いが、十数年後の勤務先での仕事などでプラスに作用していると思います。是非、積極的にコミュニケーションを取ってください。また、「現場あつての組織（現場ファースト）」ということを忘れずに、仕事に取り組んでほしいですね。「どんな地味な仕事でも社会の為になっている、頑張るぞ」という気概を持って水資源機構の職員であることを誇りに長く勤務してほしいと思います。

連載企画  
第1回

# シニア力